

国土交通省 中部地方整備局 静岡河川事務所
駿河海岸出張所 皆様 様

前略

突然の手紙で失礼します。私は、静岡市在住の杉村和高と言います。河川上流と中流の土砂流下について長年観察と研究を続けて来たアマチュアの実験者で、上流中流の土砂流下が行き着く先の、海岸の砂浜問題についても観察し研究しています。そして、それらの研究成果を「河川上流中流の土砂流下と堆積の規則性を考える」として、WEB上で公開しています。

<https://keiryuu.sakura.ne.jp/index.html>

私は、魚釣りを趣味としているうちに溪流釣りに夢中になり、その結果、上記の研究にも手を出す事になったのですが、溪流釣り以前には海岸での釣りにもよく通いました。

御前崎灯台下の岩礁地帯でのクロダイ釣りは、他の場所では味わうことが出来ないスリルに満ちたものでした。焼津の田尻浜や和田浜や大井川河口での投げ釣りも、或いは大崩海岸のクロダイ釣りなど、いずれも今となっては良い思い出でした。もちろん、釣りだけでなく「静波海岸」海水浴場にも通いました。

しかし、それらの海岸の現状は如何でしょうか。もちろん、それらの状況は私が指摘するまでも無く駿河海岸出張所の皆さんがよくよくご承知の事と思います。

私のこの手紙は、それらの海岸に昔日の砂浜を取り戻す方法について皆様に提案するためのものです。

巷間、各地の砂浜海岸や砂礫浜の土砂は、海岸流と呼ばれる潮流によって移動していると言われていています。しかし、この考えは間違いです。世界各地の全ての海岸においてそれが間違いであると言うつもりはありませんが、少なくとも、駿河湾西側の海岸においてはそれが間違いである事は確かです。

私が海岸の砂浜の問題を理解するために三保まで続く静岡の前浜の観察を始めたのは、たまたま、浸食一方だった前浜が少しずつ回復を始める時期でもありました。

その頃、前浜海岸と安倍川河口を度々観察するうちに、私は、海岸の砂礫が沿岸流と呼ばれる潮流の力では無く、渚に打ち上げる波によって移動している事に気が付きました。私は、渚を斜めに打ち上げる波が、実際に土砂を

移動させている光景を確かめる事が出来たのです。ですから、その動画も公開しています。

私は、駿河湾西岸に昔の砂浜を取り戻す事は可能である、と皆さんにお伝えしたいのです。昔、駿河湾に限らず日本中の至る所に砂浜や砂礫浜がありました。それらは全て自然状態で存在していたのです。そして、近年に至るほどそれらは失われました。ダムが出来たから砂浜が失われたと主張する人がいます。しかし、ダムが無い河川がそそぐ海岸でも砂浜は失われています。駿河湾西岸の各海岸もその例です。

砂浜が失われたのは、昔からの自然が失われたからです。したがって、それらを取り戻すためには、失われた自然を取り戻しさえすれば良いのです。とても簡単な事柄に過ぎません。

とは言うものの、現実にはそれほど簡単な事ではありません。かつての砂浜は一夜にして失われたのではありません。何年も掛かって次第に失われて行ったのです。ですから、それらを取り戻すためにも何年も掛かる事でしょう。しかし、それらは基本的には簡単な事柄であるのです。

例えば、御前崎から大井川までの海岸線の砂浜の砂は、全て、それぞれの場所より南側にある河川からもたらされています。それ等の海岸の砂浜が減少し或いは消失したのは、牧之原台地などを水源とするそれら中小の河川に原因があります。もちろん、全ての原因がそれらの河川にあるのでは無く、海岸にもその要因或いは原因がある場合もあります。しかし、それらの河川の状態を昔の姿に戻せば、海岸にも昔の姿が戻るのです。

このような考え方は、今まで、何処にも無かったと思います。WEB上の論述では、それらの考え方と現実の各地の状況を写真入りで説明しています。

それらの実例や考え方は以下を参考にして下さい。また、できれば、それらの記述の前の章や、関連する論述をお読み頂ければより良い理解が可能でしょう。海岸の砂浜のほとんどは、河川がもたらした土砂によるものですから、河川で生じている状況を把握出来なければ、海岸も回復できません。

「河川上流中流の土砂流下と堆積の規則性を考える」

<https://keiryuu.sakura.ne.jp/Keiryuu01/keiryuu00.html>

「第6章 河川から流失した土砂と「砂浜海岸」」

駿河湾西岸の場合では、小規模な工事を試みるだけでも砂浜の回復傾向を確認出来る河川が幾つかあるのではないのでしょうか。それらを実証した後に本格的な工事を行えば良いと考えています。

現在の皆さんは、何らの展望がないままコンクリートブロックを設置する事にのみ精力を注いでいると思います。現状のままでは皆さんの存在価値はありません。もちろん、皆さんもそれらの仕事のみで良いと思っているはずはないでしょう。また、地域住民の皆さんも、駿河海岸出張所の皆様がかつての海岸を取り戻してくれる事を願っているはずです。

現在は、何故、どのようにして海岸の砂浜が失われたのかを、出張所の皆さんが理解していない状況ではないのでしょうか。それらさえ理解出来れば、その対策も容易に理解できるはずです。新たな方向性や具体性が明らかになれば、皆さんの実力は十分に発揮されるようになると考えています。

ですから、駿河海岸出張所の皆様全員で情報を共有化させてその方向性や具体性について議論されます事をお勧めします。日本中で、具体的な方向性を明らかにして砂浜や砂礫浜を回復した例は何処にも無いのです。静岡の前浜が回復傾向にあるのは、たまたま運が良かったに過ぎないのです。

是非とも、砂浜海岸回復の具体例に一番乗りの声を挙げて頂きたいと思っています。以上、一方的なお知らせに終始して申し訳ありません。

なお、大井川より焼津漁港までの海岸の回復には上記の事柄のみで回復できる事はありません。新たな発想が必要です。私はその事についてアイデアを持っています。でも、私が持っているのはアイデアだけで、それを実証して、実現するまでには皆様の少くない努力が必要であると思います。

ぜひ、上記の事柄と合わせて、直接にご説明できる機会を頂きたく願っています。

敬具

2022年4月26日

420-0884 静岡市葵区大岩本町 25-37 フローラル城北C-201

杉村和高